



# 循環経済パートナーシップ® (J4CE) 2022年度 活動報告

---

2023年4月19日

## 1. J4CEの概要と2022年度活動報告

## 2. アンケート結果の分析

## 線形経済の限界

天然資源 → 大量生産 → 大量消費 → 大量廃棄

資源枯渇、資源採掘による環境負荷

廃棄による環境負荷（海洋プラスチック、有害物質等）

## 循環経済への移行が世界の潮流

資源利用効率と付加価値を最大化する経済・社会モデル

天然資源 → 効率的生産

- 環境配慮設計
- 再生材の利用
- リデュース

効率的利用

- リユース、シェア、サービス化など、高い利便性と効率化の両立

廃棄 ←

回収・リサイクル

- 回収の拡大
- 再生材の供給増
- 技術革新、品質向上

### 移行の支援

- デジタル技術
- ESG投資
- 法制度、基準
- 普及啓発

資源採掘・廃棄・GHG排出の最少化

# 循環経済パートナーシップ（J4CE）の概要

- 2021年3月に経済産業省・環境省・経団連により、「循環経済パートナーシップ（略称：J4CE ジェイフォース）」を発足。2022年度で活動は2年目。

## 趣旨

国内の企業を含めた幅広い関係者における循環経済への更なる理解醸成と取組の促進及び循環経済への流れが世界的に加速化する中での国際社会におけるプレゼンス向上を目指し官民連携を強化する。

## 経緯

- 2021年1月 環境省と経団連との懇談会にて、官民連携による「循環経済パートナーシップ」の立ち上げに合意
- 2021年3月 経済産業省・環境省・経団連により、「循環経済パートナーシップ」を発足
- 2021年4月～ 加盟企業・団体から取組事例を募集
- 2021年10月～ 官民対話を開催

## 具体的取組

- ◆ 循環経済に関する日本の取組事例の収集と国内外への発信・共有
- ◆ 循環経済に関する情報共有やネットワーク形成
- ◆ 循環経済促進に向けた対話の場の設定

## パートナーシップ構成員

創設団体：環境省、経済産業省、経団連

参加企業・団体：159社・18団体・計177（2023年3月末時点）

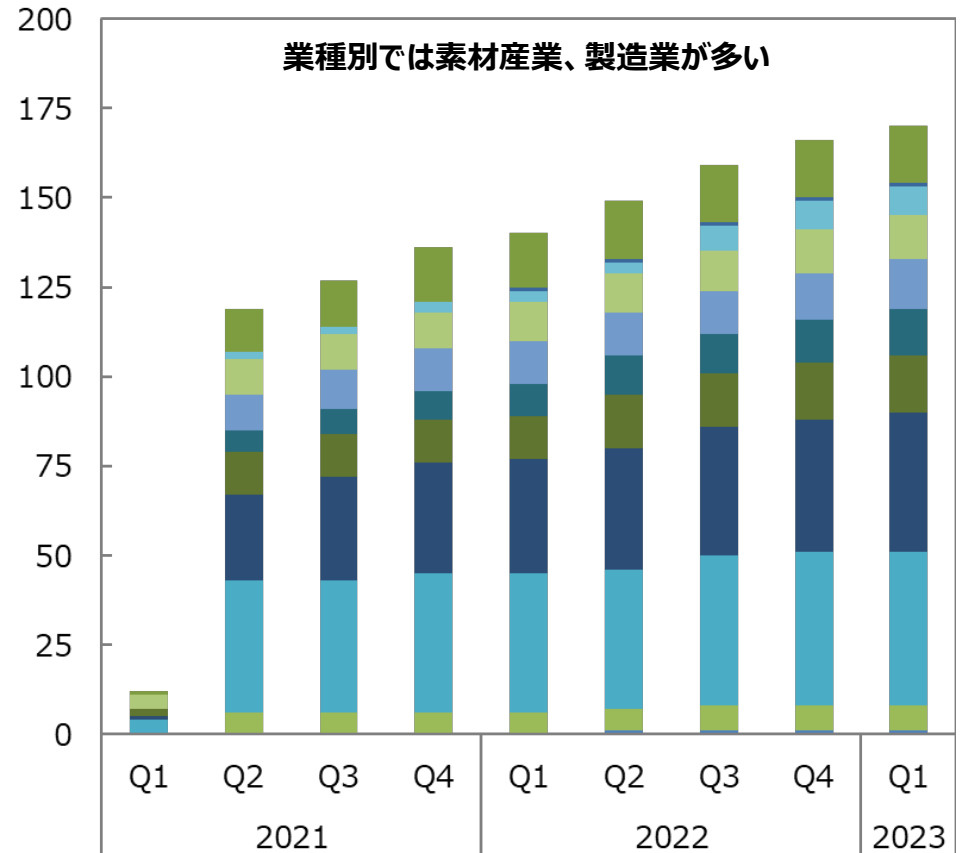
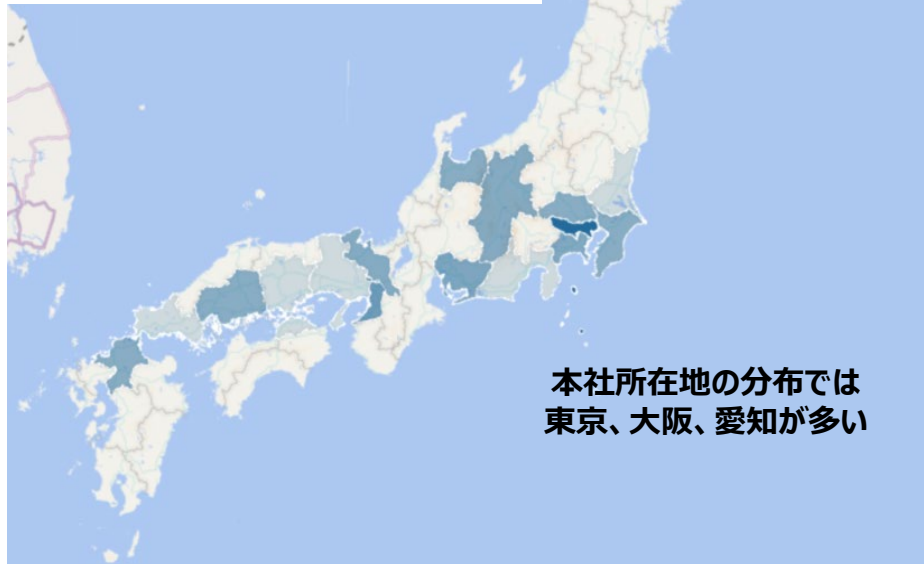
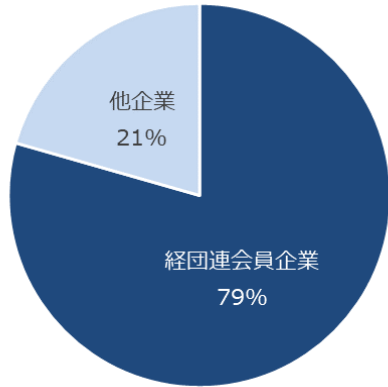
- ① 経団連の会員企業または団体
- ② ①以外の企業または団体で、本会の目的に賛同して参加を希望し、創設団体が参加を認めた者

事務局：(公財)地球環境戦略研究機関(IGES)

# J4CE参加企業・団体

- 2023年3月時点の参加企業・団体数は177。約8割が経団連会員企業。
- 約7割は東京都に本社所在。大阪府、愛知県が続く。業種別では素材産業や製造業が多い。

参加企業・団体の8割近くが  
経団連会員



- 国際機関・団体、各種団体、他
- 行政、研究機関、NGO
- 廃棄物処理・リサイクル・環境コンサルタント業
- サービス業
- 金融・保険・不動産等
- 卸・小売業
- インフラ・運輸
- 製造業
- 素材産業
- 建設業
- 農林水産業

循環経済への更なる**理解醸成**や**取組促進**、  
日本企業の**国際的なプレゼンス向上**を目的とした**官民連携強化**

日本の**取組事例収集**  
と国内外への**発信**

J4CE Activities

循環経済に関する**動向の共有**  
や関係者の**ネットワーク形成**

循環経済促進のための  
**対話の設定**

# J4CEの活動状況（1）

## ウェブサイト

160の事例を掲載  
(2023年3月末時点)



## 注目事例集2022

2021年度版（28事例）  
に続き、26の事例を選定。  
日本語版、英語版を作成



## 国際発信

COP27のサイドイベント「循環  
経済×カーボンニュートラル」で  
注目事例集2022を紹介



世界循環経済フォーラム「WCEF  
2022」、ドイツ連邦環境庁主催  
「欧州資源フォーラム」でもJ4CE  
を紹介



官民対話

マッチング会合  
ビジネス交流会

参加企業からの意見に基づく  
テーマディスカッション

企業からの事例紹介と  
交流を希望する企業との  
マッチングイベント

テーマ選定

企業の  
意見集約

循環経済を実現するにあたっての課題：整理の概要

• 官民対話における議論や事前アンケートから、J4CE参加企業が「循環経済（CE）を実現するにあたっての課題」を抽出し、次項の課題整理（案）を例示。

	課題整理		消費者・普及啓発	ビジネスモデル・技術
	横断/基盤/外部環境 (共通)	設計・生産・流通・利用 (動脈)	環境フロンティア (消費者、環境価値)	アライアンス・ビジネスモデル 情報連携システム・データ利活用 (DX) リサイクル技術開発 (品質向上)
横断/基盤/外部環境 (共通)	<ul style="list-style-type: none"> <li>動静脈間でのルール調和</li> <li>官によるルールメイク</li> <li>CEの定義の明確化</li> <li>資源循環にかかるCO2排出量算定・表示に関するルールの整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来像の提示</li> <li>投資や助成を受けるための評価の仕組み、情報開示への意識向上</li> <li>人材育成</li> <li>気候変動や生物多様性とCEの関係整理</li> <li>コスト負担の考え方の整理、インセンティブ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業や製品の評価やブランド化</li> <li>CEや資源循環の意義共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスモデルのインキュベーション、確立</li> <li>関係者間の連携推進</li> <li>DX（データ共有や利活用）の推進</li> <li>再生材市場の整備</li> </ul>
設計・生産・流通・利用 (動脈)	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境配慮設計の促進策</li> <li>関連法制度との関係性の整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生材や代替材のコスト負担をいかに求めるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品・サービスの環境価値をどのように訴求するか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産工程や技術開発における取組</li> <li>環境配慮設計</li> <li>再生材の活用</li> </ul>
回収・リサイクル (静脈)	<ul style="list-style-type: none"> <li>分別回収・リサイクルの仕組みの変更、構築</li> <li>再生品の基準・ルールの整備</li> <li>国際ルールとの調和や簡素化（国際資源循環）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に「回収」のコスト負担</li> <li>回収スキーム構築に向けたインセンティブ</li> <li>静脈産業の強化・育成（設備、人材、技術）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分別への消費者意識の機運醸成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>効率的な回収スキーム構築、連携先の確保</li> <li>リサイクル技術の開発、再生材の品質向上</li> <li>設計や回収・選別と組み合わせたリサイクルの高度化</li> </ul>

メルマガ発行

循環経済に関する内外の政策やビジネスのトピックを紹介したメルマガを月1回発行。参加企業・団体の約600名に配信。



日付	概要
2021.3.2	循環経済パートナーシップ (J4CE) 立ち上げ
2021.9.2	注目事例集発刊・ウェブサイト開設発表式
2021.10 ～2022.3	第1回～第4回官民対話 開催 第4回で年度活動報告として「 <b>課題の整理</b> 」を発表。
2022.4.20	<b>第5回 「マッチング会合」 (6社からのプレゼンと情報交換)</b>
2022.6.8	<b>第6回 講演「行動インサイトの活用と循環経済への適用可能性」「循環型社会形成の取組～あいちサーキュラーエコノミー推進プラン」</b>
2022.6.30	<b>注目事例集選定有識者会議</b>
2022.8.5	<b>第7回 「事例紹介・ビジネス交流会」 (6社からのプレゼンと情報交換)</b>
2022.9.9	<b>注目事例集2022 発表式 (会場・オンラインハイブリッド開催)</b>
2022.11.17	<b>国連気候変動枠組条約第27回締約国会議 (COP27) のジャパンパビリオンでJ4CEを紹介</b>
2022.12.19	<b>第8回 「欧州諸国の循環経済への取組と日本からの発信」</b>
2023.4.19	<b>第9回 官民対話 「2022年度活動報告と省庁からの情報提供」</b>

2022年度イベントの参加者は、各回約60～110名 (J4CE運営関係者除き)

**脱炭素**に資する事例や、**多様な業種**の資源循環の事例にも着目

## 計26事例を選定して掲載

分野	企業・団体
鉄	日本製鉄、パナソニック
非鉄金属	DOWA、JX金属、エンビプロ
セメント	太平洋セメント
紙・木質資源	日本製紙、根羽村森林組合
バイオプラスチック	三菱ケミカル、三井化学、日清食品
プラスチックの回収と再生	旭化成、全国清涼飲料連合会、ヴェオリア・ジャパン 他
リサイクル技術 (家電・プラスチック・繊維)	家電製品協会、ソニー、帝人 他
リサイクルループの形成 (プラスチック・食品リサイクル)	日榮新化 他、イオン 他、J&T環境 他

\* 企業・団体名については、「株式会社」「グループ」「ホールディングス」等を省略、複数の企業・団体による取り組みについては2社目以降を「他」と表記。

## ウェブサイト

160の事例を掲載  
(2023年3月末時点)

アクセス分析によると、日本語サイトには毎月1,000件程度、英語サイトには毎月200件程度のアクセスがある。

主な掲載文書のダウンロード数 (2022年1月～12月)

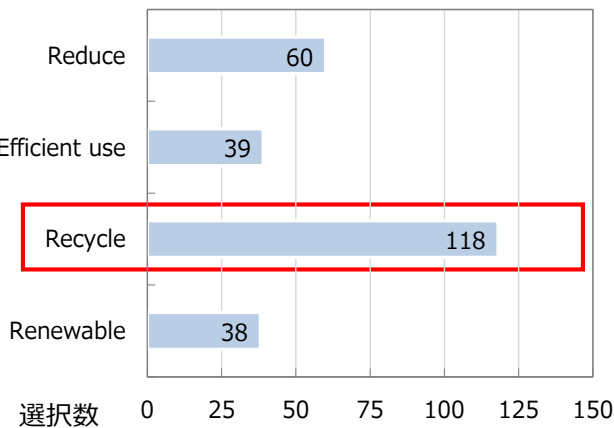
文書名	年間ダウンロード数
注目事例集2021日本語版	730
注目事例集2021英語版	129
注目事例集2022日本語版	530
注目事例集2022英語版	51
2021年度活動報告	581



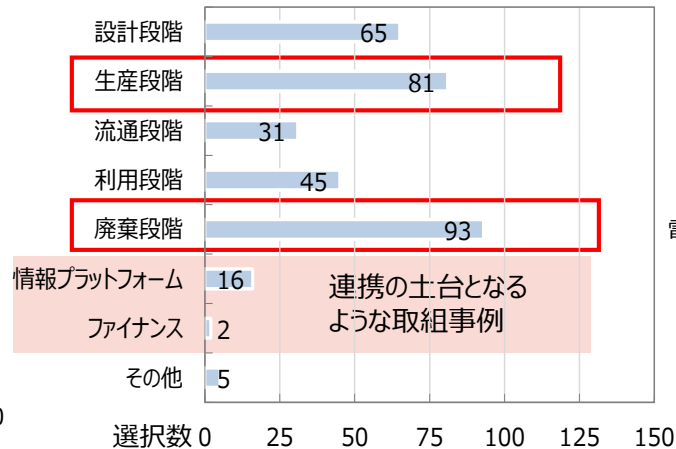
# 参加企業の取組事例の概要

- 2021年3月～2023年3月にJ4CE事務局へ提出された企業・団体の事例は160件。
- ① 3 R等循環型の取組の分類別ではリサイクルの事例が最多、②製品ライフサイクル段階別では廃棄や生産の段階の事例が多数、③取組対象となる製品・素材別ではプラスチックの事例が最多、④連携の対象者別では異なる業種間の連携

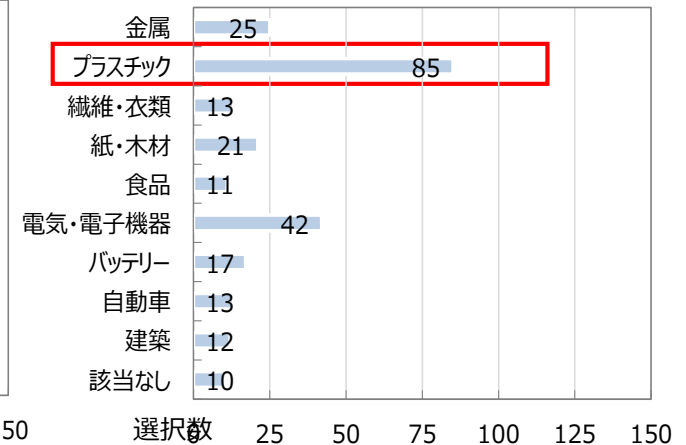
① 3 R等循環型の取組の分類別



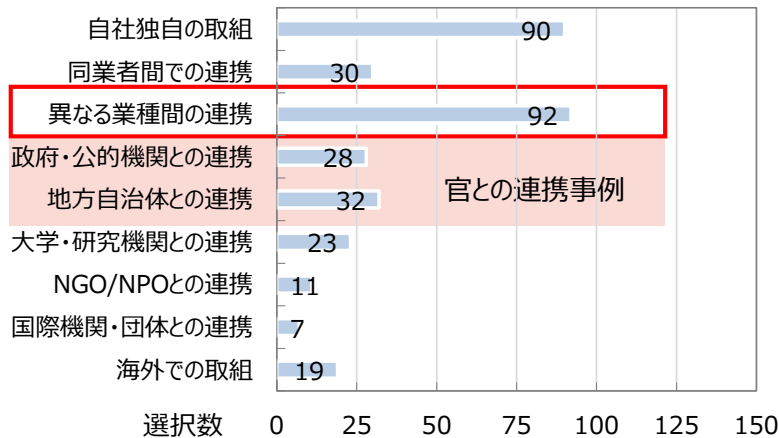
② 製品ライフサイクルの段階別



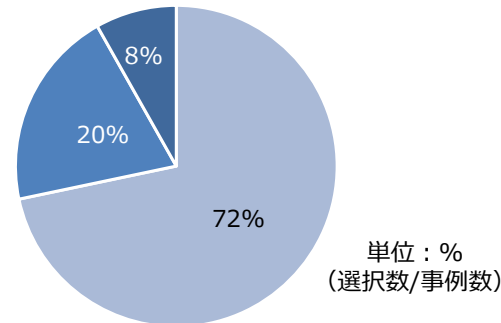
③ 取組対象となる製品・素材別



④ 連携の対象者別



⑤ 実施段階



(備考) グラフでは数が多いものを赤枠で表示。分類のうち、①～④は複数選択のため、各選択数の合計は160件にはならない。なお、⑤は単数選択。

- 実用段階にある取組（一般に販売しているなど）
- 研究開発・モデル事業等、将来に向けた取組
- 無回答

# 1. J4CEの概要と2022年度活動報告

## 2. アンケート結果の分析

# 参加企業アンケート（2022年度）

## 目的と概要

- J4CEへの参加度合いや満足度と期待などの全般的な質問と、2021年度「課題の整理」をベースとして循環経済の促進に向けた課題の認識についての27の質問。
- J4CEメルマガ送付と同じ169社・団体（2023年1月時点）の約600名に送付し、156名からの回答をいただいた。

## 質問項目（抜粋）

Q. J4CEの取組みの中で、活用あるいは参考にされている内容を全てお選びください。

- 1 官民対話
- 2 注目事例集
- 3 ビジネス交流会（マッチング会合）
- 4 メルマガ
- 5 ウェブサイトにおける取組事例の公開
- 6 活用あるいは参考にしている内容はない
- 7 その他

Q. 今後「J4CE」に求める役割や機能を全てお選びください。

- 1 他社との交流による新たなビジネスのきっかけづくり
- 2 循環経済における国の政策に関する意見交換
- 3 国内外における循環経済に係る情報提供（政策・社会動向、補助事業等）
- 4 海外の機関・イニシアチブや海外企業との接点の強化
- 5 自社の取組の国内外への発信の場
- 6 個々の素材や製品分野に特化したディスカッション
- 7 その他

※2021年度の課題整理に紐づけた設問

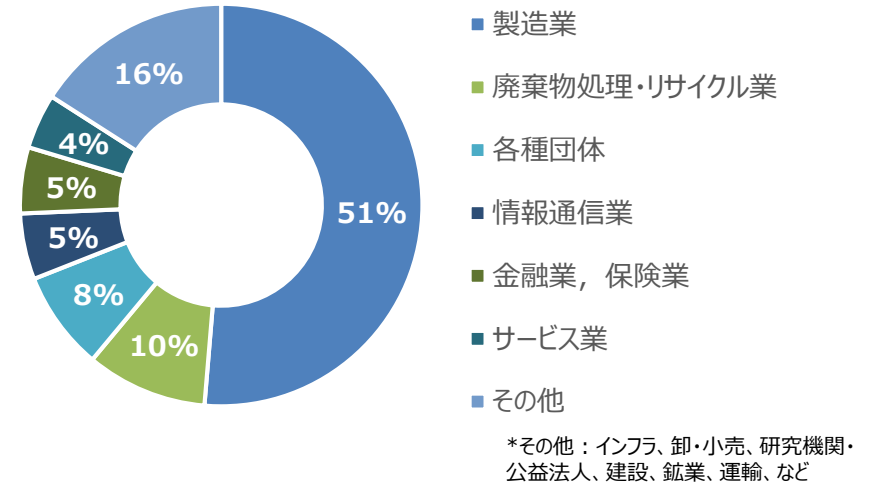
Q. 現在、ご自身が知りたいと思うテーマを5つお選びください。  
 Q. J4CEで自社以外のJ4CE会員に問題提起あるいは情報共有したいと思うテーマを5つお選びください。

	制度・ルール			コスト・投資		消費者・普及啓発	ビジネスモデル・技術			
	法令整備	ルール形成（マシランズ法と市場ルール）	海外規制	コストアップや費用負担	CEビジネスへの投資	環境ブランディング（消費者、環境価値）	オンライン・ビジネスモデル	情報連携システム・データ利活用（DX）	リサイクル技術開発（品質向上）	環境配慮設計・代替素材
横断/基盤/外部環境（共通）	①			④		⑦	⑩			
設計・生産・流通・利用（動脈）	②			⑤		⑧	⑪			
回収・リサイクル（静脈）	③			⑥		⑨	⑫			

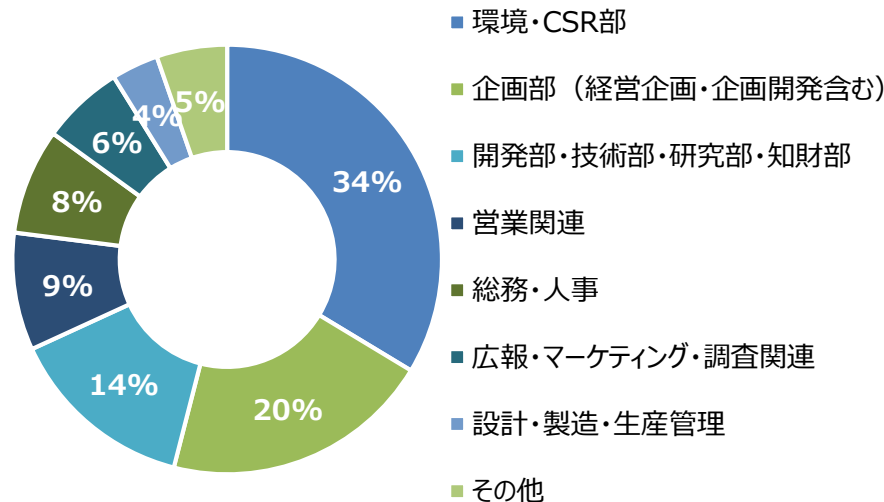
# アンケート結果の分析（回答者の属性）

- 回答者の所属企業は、**約50%が製造業**で、次いで**約10%が廃棄物処理・リサイクル業**であった。
- 所属部署は、**環境・CSR部門が34%**と最も多く、次いで**企画関連の部門が約20%**となっている。**部課長など決裁プロセスに関わるクラスの参加者が多い。**

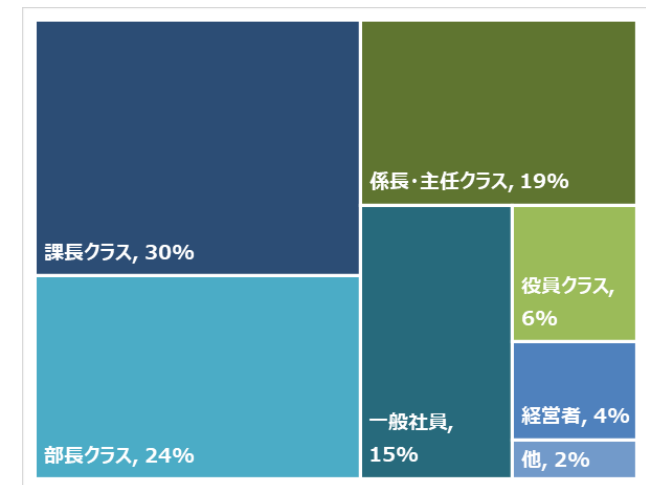
## Q. 所属企業あるいは団体の業種を教えてください。（n=113）



## Q. あなたの所属部署に最も近いものを教えてください。（n=113）



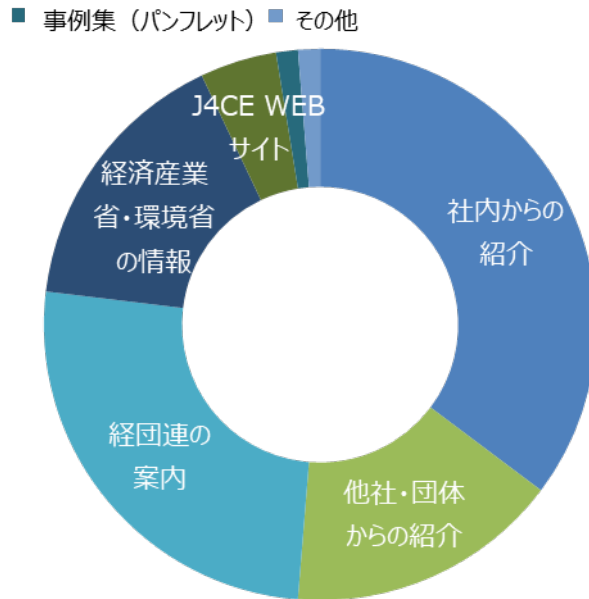
## Q. あなたの役職に最も近いものを教えてください。（n=113）



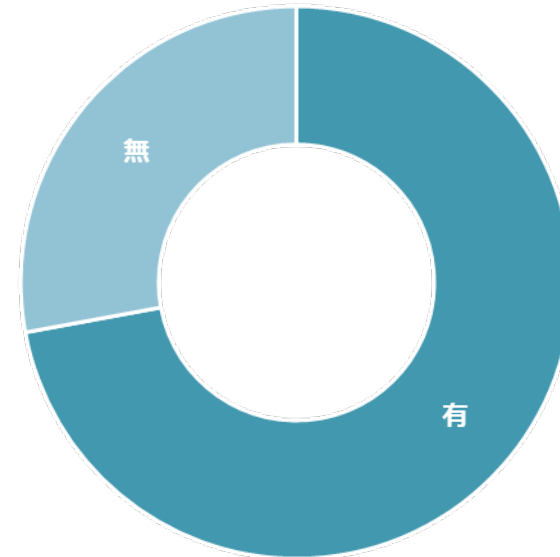
# アンケート結果の分析（J4CEを知ったきっかけ、社内の情報共有）

- J4CE創設時は経団連から会員企業への案内でスタートしたが、回答者がJ4CEを知ったきっかけは「**社内からの紹介**」が最も多い。また、各社内で必要な部署・担当者へ情報を共有いただいていることが見て取れる。
- 「**経団連からの案内**」に次いで「**環境省・経済産業省からの情報**」も一定数あるが、「J4CEウェブサイト」や「注目事例集」をきっかけに知ったという回答は少なく、これらがJ4CE外にはなかなか届いていない可能性がある。

Q. J4CEを初めて知ったきっかけを1つお選びください  
(n=156)



Q. J4CEで知った情報や資料を、社内の他部門に展開したことはありますか。  
(n=147)





# アンケート結果の分析（活動への参加、活用、期待する機能）

- 各種活動は、いずれも「**活用または参考にしている**」という回答が一定以上得られている。
- 官民対話イベントの満足度については、ばらつきはあるものの、情報提供に対する満足は得られている。参加しなかった理由は「**日程が合わなかった**」が最も多かった。
- J4CEに期待される機能としては、「国内外における循環経済に係る**情報提供**（政策・社会動向、補助事業等）」「循環経済における国の政策に関する**意見交換**」がほぼ同数で最も多く、「**他社との交流**による新たなビジネスのきっかけづくり」がそれに続いた。

**Q. J4CEの取組みの中で、活用あるいは参考にされている内容を全てお選びください。（n=148）**

注目事例集	70%
官民対話	55%
メルマガ	37%
ウェブサイト（取組事例）	34%
ビジネス交流会（マッチング会合）	22%
活用あるいは参考にしている内容はない	1%

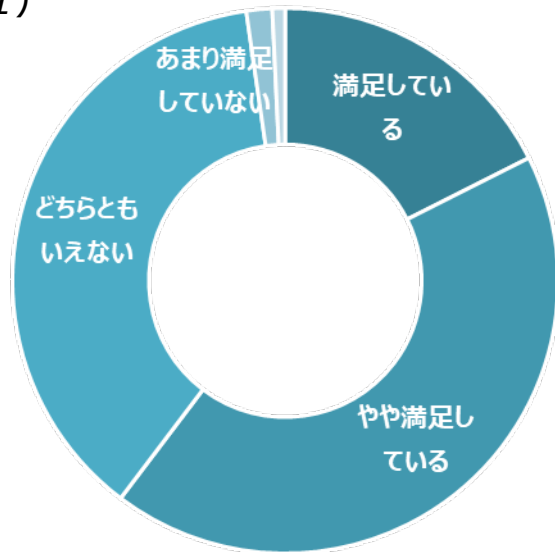
**Q. 今後「J4CE」に求める役割や機能を全てお選びください。（n=115）**

循環経済における国の政策に関する意見交換	76%
国内外における循環経済に係る情報提供（政策・社会動向、補助事業等）	75%
他社との交流による新たなビジネスのきっかけづくり	50%
海外の機関・イニシアチブや海外企業との接点の強化	39%
自社の取組の国内外への発信の場	31%
個々の素材や製品分野に特化したディスカッション	16%

# アンケート結果の分析（満足度と今後への期待）

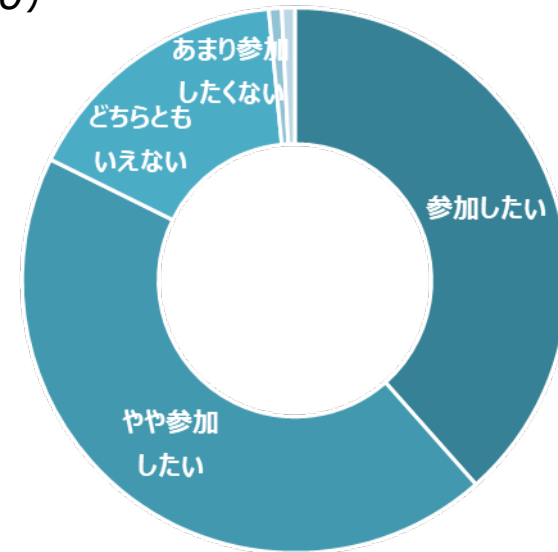
- 活動への満足度は平均で5段階中で3.7と中程度であるが、今後も参加したいという意向はそれよりも高い4.2で、活動に期待をいただいていることが見て取れる。

Q. J4CEに対する総合満足度を教えてください。  
(n=131)



(5点満点のうち平均3.7)

Q. J4CEの活動に今後どの程度参加したいですか。  
(n=130)



(5点満点のうち平均4.2)

# アンケート結果の分析（関心の高い領域）

- 課題の整理（12領域）のうち、「知りたいと思うテーマ」と「問題提起あるいは情報共有したいと思うテーマ」の傾向は似ていた。
- 最も関心の高い領域は「**回収・リサイクル段階（静脈側）の制度・ルール**」であり、分野別でも「制度・ルール」が最多。段階別では、いずれの分野でも「回収・リサイクル段階」が最多。

	制度・ルール			コスト・投資		消費者・普及啓発	ビジネスモデル・技術			
	法令整備	ルール形成（マシバランス法など市場ルール）	海外規制	コストアップや費用負担	CEビジネスへの投資	環境ブランディング（消費者、環境価値）	アライアンス・ビジネスモデル	情報連携システム・データ利活用（DX）	リサイクル技術開発（品質向上）	環境配慮設計・代替素材
横断/基盤/外部環境（共通）	<ul style="list-style-type: none"> <li>動静脈間でのルール調和</li> <li>官によるルールメイク</li> <li>CEの定義の明確化</li> <li>資源循環にかかるCO2排出量算定・表示に関するルールの整備</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>将来像の提示</li> <li>投資や助成を受けるための評価の仕組み、情報開示への意識向上</li> <li>人材育成</li> <li>気候変動や生物多様性とCEの関係整理</li> <li>コスト負担の考え方の整理、インセンティブ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>企業や製品の評価やブランド化</li> <li>CEや資源循環の意義共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスモデルのインキュベーション、確立</li> <li>関係者間の連携推進</li> <li>DX（データ共有や利活用）の推進</li> <li>再生材市場の整備</li> </ul>			
設計・生産・流通・利用（動脈）	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境配慮設計の促進策</li> <li>関連法制度との関係性の整理</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>再生材や代替材のコスト負担をいかに求めるか</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>製品・サービスの環境価値をどのように訴求するか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産工程や技術開発における取組</li> <li>環境配慮設計</li> <li>再生材の活用</li> </ul>			
回収・リサイクル（静脈）	<ul style="list-style-type: none"> <li>分別回収・リサイクルの仕組みの変更、構築</li> <li>再生品の基準・ルールの整備</li> <li>国際ルールとの調和や簡素化（国際資源循環）</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>特に「回収」のコスト負担</li> <li>回収スキーム構築に向けたインセンティブ</li> <li>静脈産業の強化・育成（設備、人材、技術）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>分別への消費者意識の機運醸成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>効率的な回収スキーム構築、連携先の確保</li> <li>リサイクル技術の開発、再生材の品質向上</li> <li>設計や回収・選別と組み合わせたりサイクルの高度化</li> </ul>			

出典：2021年度活動報告資料（2022年3月）循環経済を実現するにあたっての課題整理

Q. ご自身が知りたいと思うテーマを5つお選びください。（n=119）

	制度・ルール	コスト・投資	消費者・普及啓発	ビジネスモデル・技術
横断/基盤/外部環境（共通）	66%	37%	34%	46%
設計・生産・流通・利用段階（動脈側）	32%	29%	20%	37%
回収・リサイクル段階（静脈側）	67%	51%	27%	54%

Q. J4CEで問題提起あるいは情報共有したいと思うテーマを5つお選びください。（n=119）

	制度・ルール	コスト・投資	消費者・普及啓発	ビジネスモデル・技術
横断/基盤/外部環境（共通）	59%	44%	29%	39%
設計・生産・流通・利用段階（動脈側）	39%	34%	18%	38%
回収・リサイクル段階（静脈側）	63%	51%	35%	50%

# アンケート結果から見たJ4CEへの評価

## ①評価の高い点

- 内外の政策動向や企業事例等についての、イベントやメルマガ、注目事例集等による情報提供は評価が高い。

## ②期待されている点

- 循環経済における国の政策に関する意見交換について期待が大きい。
- 回収・リサイクル段階の制度・ルールの領域について特に関心が高い。
- 他企業との交流、ビジネスマッチングの機能をさらに期待する意見が一定数ある。





## 循環経済パートナーシップ (J4CE)

### 創設団体



事務局 (公財)地球環境戦略研究機関 (IGES)  
E-mail: [J4CE\\_Secretariat@iges.or.jp](mailto:J4CE_Secretariat@iges.or.jp)  
Website: <https://j4ce.env.go.jp/>

